

世界に挑む。

広島大学長 越智光夫 対談 サンフレッチェ広島 監督 森保一氏

昨シーズン、3度目のサッカーJ1年間王者とクラブワールドカップ世界3位という偉業を成し遂げたサンフレッチェ広島。チームを率いる森保一監督に、以前から親交のある広島大学長の越智光夫がお話を伺いました。

■森保監督と越智学長の出会い

越智：昨年サンフレッチェ広島が躍進した年でしたね。長年チームを応援してきた私も大変うれしく思っています。
森保：ありがとうございます。サポーターをはじめたくさんの方の応援に、結果で応えることができて本当に良かったです。選手時代からお世話になっている越智先生にも、喜んでいただけて何よりです。
越智：かれこれ30年以上になるでしょうか。私とサンフレッチェ広島とは、マツダ時代からの古いお付き合いです。選手の手術がきっかけで、当時のオフ監督に信頼いただき、メディカル面のお世話をするようになりました。
森保：私が初めて先生にお会いしたのは、入団したの18歳の頃でした。けがを診てもらったために泥だらけの足で診療台に上がろうとしたら、注意されました。先生には身体のケアを含めて、人間的にも指導していただいたのを今でも覚えています。あらためて感謝申し上げます。
越智：私の方こそサンフレッチェ広島に育ててもらったようなものです。青山敏弘選手をはじめ日本代表でも活躍した選手たちの手術を担当しましたが、そのすべてが今の自分の礎となっています。
森保：サンフレッチェ広島の選手たちは、越智先生に何度も選手生命を救ってもらいました。現キャプテンの青山も先生に手術してもらったおかげで、復帰後ブラジルワールドカップに出場できました。また、昨年はJリーグのMVPにも輝きました。選手の活躍の陰に“名医あり”ですね。

■サンフレッチェ広島と広島大学の共通点

越智：クラブワールドカップで対戦した中国のクラブと比べると、サンフレッチェ広島は地方のクラブということもあり、資金も決して潤沢ではないですね。強いチームの宿命ですが、育成した主力選手も相次いで引き抜かれます。でも逆風を見事に乗り越え、4年間で3度のJ1年間王者を成し遂げたことは本当に素晴らしいですね。一体、どのような秘密があるのですか。

森保：一人一人の思いが強く、団結したからです。主力選手が移籍する中でも、「サンフレッチェ広島でプレーし、優勝したい」と強く願う選手たちがチームを盛り上げてくれたのです。そして積み上げてきたものが実を結んだことも大きかったですね。
越智：「積み上げてきたもの」とは何でしょうか。
森保：プロである以上、移籍は仕方がないことですが、サンフレッチェ広島にはマツダ時代から続く「育成型クラブ」というコンセプトがあります。だから力を落とさず戦うことができました。
越智：若い力で底上げしてきたというわけですね。広島大学が置かれている状況も、サンフレッチェ広島とよく似ています。そこで私は、広島大学もサンフレッチェ広島を見習うべきなのではないかと考えています。
森保：それは光栄です。一体どのような点が似ていますか。
越智：サンフレッチェ広島と同じく、広島大学は地方から世界を目指しています。東大や京大に比べると地味に思われがちですが、実は世界に誇れるものをたくさん持っています。いくつか例を挙げると、大学を評価する上で重視される論文引用度数において宇宙科学で国内トップクラスであることとか、ゲノム編集の第一人者である理学研究科の山本卓教授が手掛ける遺伝子治療や品種改良に関する研究、医歯薬保健学研究院の山脇成人教授が広島を代表するメーカーとタイアップしたワクワク感を可視化する技術の開発など、ユニークで先進的な試みが進んでいます。人文社会分野でも教育学や中国文学など、長年積み上げた研究業績に定評があります。
森保：サンフレッチェ広島も、広島大学のスポーツ医科学センターに、トレーニングやケガの予防で最先端の支援をいただいています。ずいぶん幅広い分野で活躍されているんですね。驚きです。学生さんや卒業生にとっても誇らしいことですね。
越智：学生や教職員、さらには卒業生たちが、誇りと強い意志を持って団結していく必要があります。そのためには、まずは多くの人に大学の魅力を知ってもらいたいです。例えば2013年には、文部科学省の「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に選ばれ、2014年には「スーパーグローバル大学創成支援事業タイプA(トップ型)」にも選ばれました。これは首都圏以外の地方にある大学では、旧帝大を除くと広島大学が唯一という誇らしい評価です。〳

■一人一人の力を引き出す

森保：確かなビジョンのもと、戦略を立てて大学の価値を高めていく点に、とても共感を覚えます。「広島大学はこうやって戦います」という決意が伝わります。
越智：サンフレッチェ広島にも、明確なビジョンとぶれない強さを感じます。クラブワールドカップでは、シーズン終盤で疲労・疲弊している中、驚異的な粘りで世界3位を獲得されたのですから、あの戦いぶりには感動しました。
森保：選手一人一人が、最後まで粘り強く戦い抜く、チームのスタイルを体現してくれました。結果に結び付いたことは、選手にとっても自信になったと思います。
越智：ここ一番で選手にチャンスを与える監督のリーダーシップも、チームを引っ張り、逆境をね返す力になっているのではないですか。

森保：私の場合は、「みんなでがんばろうよ」といった感じのリーダーシップです。フィールド上では、私が現役時代に一緒にプレーしていた佐藤寿人選手や森崎兄弟、林卓人選手が、チームの考え方や戦う姿勢を若いメンバーたちに浸透させてくれています。
越智：まさにそれが現代のリーダー像だと思いますよ。多様化するグローバル社会では、部下と共に良い仕事をしようとするサーバント・リーダーが求められているそうです。本来は「従者」を意味するサーバントですが、いわゆる支配型のリーダー像と異なる、支援型のリーダー像といったところですね。
森保：サッカーにも通じる考え方ですね。一人一人の個の力についてはいかがでしょうか。サッカーの世界では、個のレベルアップも組織のレベルアップには必要です。大学も同じですか。
越智：研究もチームで行いますが、優れた業績を挙げるには、やはり一人一人が自立した研究者として力を発揮しなければなりません。研究チームのリーダーにも、個の力を生かす支援の意識が必要ですね。

設けています。東日本大震災と福島原発事故では、事故翌日から延べ1300人を超える被ばく医療チームを派遣し、現地の人々に寄り添っていました。学生ボランティアも現地に行って、精力的に活動しています。

■Fight together! Challenge together!

越智：サンフレッチェ広島はクラブワールドカップで世界3位を勝ち取りました。学問の世界にもノーベル賞という頂上舞台があります。この3月広島大学は、2012年のノーベル生理学・医学賞を同時受賞された京都大学の山中伸弥博士と、英国ケンブリッジ大学のジョン・ガードン博士をお迎えして、特別講演を行っていただきます。
森保：それはすごいです。お二人は広島大学とご縁があるのですか。
越智：山中先生とは、同じ再生医療の分野を研究し旧知の間柄です。広島大学には、カエルの飼育・研究で世界的に知られる両生類研究施設があり、ガードン研究所と共同研究もしているのです。山中先生のIPS細胞の成功は、約半世紀前のガードン先生のクローンカエル作製成功が起点になったといわれています。
森保：世界とつながっているのを感じますね。講演を聞きに来られた方たちも興奮されたことでしょうか。
越智：未来の科学者たちは両教授のお話を聞いて、夢が膨らんだようです。最後に新入生を迎えるに当たって、監督からも夢が膨らむメッセージをいただきたいのですが、よろしいでしょうか。
森保：新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新しい生活が始まりますが、目標を持ってしっかりと自分の道を歩んでほしいと思います。ただ、先の目標にとらわれすぎると、今を一生懸命生きることがおろそかになります。サンフレッチェ広島は、昨シーズンをJリーグ制覇で締めくくることができましたが、今季のスローガンは、あえて「WE FIGHT TOGETHER 2016 挑戦」としています。「全ての方と共に戦い、もう一度挑戦しよう」という意味を込めています。新入生の皆さんも挑戦者となり、学生生活の瞬間瞬間を大切に過ごしてください。
越智：熱いメッセージ、ありがとうございます。広島大学も次々と挑戦していきます。その一つが、大学発祥の地、東千田キャンパスにこの春オープンした東千田未来創生センターです。霞キャンパスの医歯薬保健関係学部の教養教育を中心に、社会人大学院を開講する準備も進めています。広島大学は、世界トップレベルの研究力を教育に反映させ、「広島大学で学んでよかった」と思えるような環境をつくりたいです。新入生を含め、若い人たちが独創的な発想で、自らの道を切り開いていくことを支援していきます。期待してください。

■ヒロシマのチーム、大学として

越智：ところで監督は長崎で育ち、広島でプレーされました。平和についてはどうお考えですか。
森保：二つの被爆地にゆかりを持つ人間として、サッカーから平和のメッセージを発信できるのではないかと考えています。昨年のクラブワールドカップのコメントに「平和都市ヒロシマ」のフレーズを入れたのも、平和にスポーツできることの尊さをテレビ放映される世界180カ国へ伝えたかったからです。
越智：あのコメントには私も感銘を受けました。広島大学も前身学校の多くが壊滅的な被害を受け、多くの学生・生徒や教職員が犠牲になりました。平和は本学の原点です。われわれはこの原点を胸に刻みながら、「平和を希求する国際的教養人」の育成に努めているのです。
森保：それは素晴らしいですね。平和につながる具体的な取り組みも行われているのですか。
越智：大学のカリキュラムで平和教育を必修化するなど、平和について考える機会を日常的に

「スーパーグローバル大学創成支援事業」タイプA(トップ型)

国立	北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、 広島大学 、九州大学
私立	慶應義塾大学、早稲田大学

* 中四国では広島大学が唯一

森保：世界のトップレベルを目指す大学に選ばれたのですね。
越智：広島大学も、サンフレッチェ広島に続き、世界でさらなる活躍を目指します。具体的には、10年以内の世界トップ100入りを目指し、教育力強化と研究力強化を両輪とした大学改革を進めているところです。さらに目標を達成すれば終わりではなく、100年後も光り輝く大学にしていけるために、みんなで英知を集め行動しているところです。



第12代広島大学長 越智光夫



サンフレッチェ広島 監督 森保一

HIROSHIMA UNIVERSITY 建学の精神 自由で平和な一つの大学 基本理念 ○平和を希求する精神 ○新たなる知の創造 ○豊かな人間性を培う教育 ○地域社会・国際社会との共存 ○絶えざる自己変革

<p>■学部</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合科学部 総合科学科 文学部 人文学科 教育学部 第一類(学校教育系) 第二類(科学文化教育系) 第三類(言語文化教育系) 第四類(生涯活動教育系) 第五類(人間形成基礎系) 法学部 法学科 経済学部 経済学科 理学部 数学科 物理科学科 化学科 生物科学科 地球惑星システム学科 医学部 医学科 保健学科 歯学部 歯学科 薬学部 薬学科 薬科学科 工学部 第一類(機械システム工学系) 第二類(電気・電子・システム・情報系) 第三類(化学・バイオ・プロセス系) 第四類(建設・環境系) 生物生産学部 生物生産学科 	<p>■大学院</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合科学研究科 文学研究科 教育学研究科 社会科学研究科 理学研究科 先端物質科学研究科 医歯薬保健学研究科 工学研究科 生物圏科学研究科 国際協力研究科 法務研究科(法科大学院) <p>■共同利用施設・共同研究拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> 原爆放射線医学研究所 放射光科学研究センター ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 ■病院 広島大学病院 ■中国・四国地区国立大学共同利用施設 西条共同研修センター <p>■専攻科</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育特別専攻科
---	--

卒業生の皆へ 広島大学校友会(フェニックスクラブ)へご加入ください。 学生支援事業を行うとともに、校友間のコミュニケーションを促進し、広島大学に関係する全ての個人や団体からなる広島大学コミュニティの育成と発展を図ることを目的としています。

●校友会への問い合わせ 広島大学校友会事務局 TEL/FAX:(082)424-6015 E-mail:sec@phoenix.hirodai.jp Webサイト:http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/